

△ここに、この人△

山城第二組 圓重寺住職 小山 洋氏

東日本大震災で亡くなられた方々に、哀悼の意を表しますとともに、悲しみの中苦難生活を強いられている皆様に、お見舞い申し上げます。

御遠忌を迎えるにあたり、輪番はじめ皆様方の御尽力により別院内の整備をすることができました。

一人でも多くの方々に別院に御参詣いただきたく、日ごろより輪番が申していました。その思い、意気込みが皆様方に伝わったからこそ御協力いただいたと思います。

しかし、まだまだ手つかずなところもございます。また御遠忌後の別院をどのように方向付けていくかが、今後の課題ではないでしょうか。皆様方とじっくりと考えていければと思います。

慶縁の集い開催

去る二月十九日午後五時半より、慶縁の集いが開催されました。当院において仏前結婚式を行った十一組のうち、五組の方々の参加がありました。わた悟商店の社長のハーモニカ演奏などもあり、楽しい一時を過ごしました。



岡崎別院茶道教室

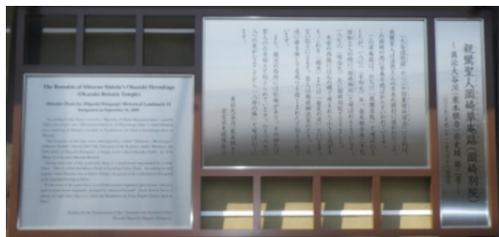
現在当院において、水島宗葉師の指導により茶道教室を開催しています。

4月の日程

4月2日(土)	10時	16時
4月4日(月)	10時	16時
4月11日(月)	10時	16時
4月17日(日)	10時	16時
4月18日(月)	10時	16時
4月24日(日)	10時	16時
4月30日(土)	10時	16時

宗史蹟の看板設置

宗宝宗史蹟の指定を受けたことにより、真宗大谷派(東本願寺)から看板を設置していただきまし



第二回婚活の集い

去る一月六日午後六時より、当院において婚活の集いが行われました。約二十五名の方々はいずれも真剣な出遇いの場として参加いただき、四組のカップルが成立しました。このことは、主催したものの一人として慶ばしく思います。



鏡池だより

第7号 平成23年(2011年)4月・5月・6月号 発行:編集 岡崎別院 輪番 福田 大

△宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌に念う△

〜震災お見舞い申し上げます〜

このたびの未曾有の巨大地震により東北・関東をはじめ、国内の広範囲の地域に甚大なる被害がもたらされました。震災により生命を奪われた方々に衷心より哀悼の意を表しますとともに、いまだに安否がわからない方々、原子力発電所の深刻な状況の中で避難生活を余儀なくされている方々、すべての皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

激甚災害の中で、「宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌」をお迎えすることになった。宗祖ならこのような状況の中で何を語り、どのような行動をされるだろうかを想うとき、上野国佐貫(群馬県)での「三部経の千部読誦」の出来事を想起した。

どうしようもない状況の中で、思い立ち、なした行動、でもそのことをよくよく案じてみれば、法然上人から学んだ教えにあらざるこの気付きであった。どうしようもない自らの自力心のその現実には他ならなかった。どこまでも自力の心で生きていく愚かな自分、何もできない小さな存在である自分、そんな自分との出遇いであったと同時に、愚かで小さな自分であるゆえに、助け合っていく人間存在の確認ではなかったか。

地震によってもたらされた惨状の中、宗祖から「御同朋・御同行よ、あなたがたができることは、何であるうか」と問われている御遠忌であるように思われてならない。

無縁社会を生きるわれわれに、「縁を尽くすことの大切さ、人と人との間柄を生きている人間の本来に触れてください」と、この私が宗祖から案じられていることに手が合わり、頭が下がる。まさにそのことが願われている「いま」ではなかるうか。

分陀利華

〜ともの同朋にもねんごろのこころ〜

「四季の花々を楽しめる境内でありたい」これが、整備を始める前の願いでした。願えば、二〇〇八年十月に着任のありには、どこから、どのように整備を始めればいいのかわからず途方に暮れる私に、多方面から指導と御協力を賜りましたことは、貴重で感動的な経験となりました。

「御消息集」の中で宗祖は、「ともの同朋にもねんごろのこころ」と、書きとめておられ、そのことに関して宮城顕師は、この「ねんごろ」という言葉は、「ねもころ」という言葉から転じた言葉なのだそうです。(略)

「古語大辞典」を引いてみますと、「根も絡みつくほどに」とあり、相手の人とそれこそ命を一つにすると、木がお互いに根を絡みつけ合っている、その根を引き離すことができない、別々にならない。そういう一つになつて生きるという意味が「ねもころ」という言葉の意味のようです。(略)

「ねんごろ」という言葉は、相手の気持ち、さらにいえば相手の存在を思いやる心なんでしょう。その相手の存在そのものを常に心にかけ、思いやるという意味が「ねんごろ」という言葉にこめられてあるように思います。

宮城顕著『人と生まれて』より
いま、この先生のお言葉がリアルな響きとなり、自分の都合や主義・主張で相手との関係を引き裂いて生きている私の現実が浮き彫りにされる思いでございます。

法座のご案内

〜定例法座〜

毎月13日 9時半〜味読正信偈

11時〜雑炊の集い

講師 岡崎別院 輪番

6月23日 9時半〜

講師 菅原 信頭師

(京都教区 山城第2組 澄江寺 住職)

「宗祖を訪ねて」のご案内

本年六月三日より、三日講の入門講座として、皆様方とともに宗祖のご生涯を訪ねる講座を開設いたします。

お一人でも多くの方々のご参加をお待ちしております。

6月3日 9時半〜

講師 岡崎別院 輪番 岡崎別院 列座

梅香記

「御池(鏡池)」に駒札を設置しました



承元の法難(専修念仏停止)により、越後配流のあり、この池にお姿を映され、明記しました。

「延賞台跡地」に駒札を設置しました



昔の延賞台は二階建ての茶室で、高台から金戒光明寺、遠くは永観堂や銀閣寺を見渡すことができました。この地を後世に伝えられるよう、駒札に明記しました。

別院往来 結婚式



2011年1月30日 新郎 廣小路 直人 様 新婦 辻 直子 様



2011年1月15日 新郎 清原 良潤 様 新婦 秦 明子 様



2010年10月9日 新郎 伴戸 了徹 様 新婦 高橋 ひとみ 様



2011年2月26日 新郎 三輪 正敬 様 新婦 古澤 寿寿子 様

披露宴



2011年3月12日 新郎 四井 唯 様 新婦 山口 嘉奈子 様



2011年3月6日 新郎 児島 直人 様 新婦 鎌倉 称子 様



承元の法難



『選択本願念仏集』の書写



六角堂百日参籠



誕生〜得度



御往生



帰洛



三部経読誦の行



恵信尼との結婚

辻俊明氏プロフィール 1979年金沢美術工芸大学日本画卒業 2011年大谷専修学院本科卒業 画歴 (1976年以降) 日展5回入選 日春展13回入選 創画会展出品 現在無所属

「絵画制作」の御礼 上記の絵画は本年三月に大谷専修学院山科学舎本科を卒業された辻俊明氏により制作されました。氏には、学業で御多用にもかかわらず、三か月という短期間で書き上げていただき、たいへんご尽力を賜りましたこと、ここに厚く御礼を申し上げます。

「絵画制作」の御礼